



知床科学委員会しんぶん

エゾシカ・ヒグマ ワーキンググループ NO. 14



知床半島に暮らす皆さんにお願いです。
ゴミや食べ物の徹底した管理を今一度お願いします！



左は数年前から行われている知床ヒグマえさやり禁止キャンペーンのロゴです。ヒグマは人を見たら必ず襲いかかる動物ではありませんが、一度人間の食べ物の味を覚えてしまうと、繰り返し人前に現れる危険なクマになります。

ゴミに含まれる人間の食べ物をクマが食べてしまうと、エサやりと同様に、危険なクマを生み出すことになります。ゴミは暮らしや仕事の中で必ず出るもの。適切に管理することが、危険なクマを作らず、安心して暮らすことにつながります。

どうかご理解とご協力をよろしくお願いします。

例えば…



生ゴミは野外に放置せず、収集日の朝に出す



ヒグマが壊せないゴミ箱を使う



ヒグマの食べ物になりそうなものは電気柵で囲う

ヒグマを見たらこちらまでご連絡ください。

- 標津町 0153-82-2131 (標津町役場農林課林政係)
- 羅臼町 0153-87-2126 (羅臼町役場産業課)
- 斜里町 0152-24-2775 (知床財団 / 日中のみ)
090-3778-4308 (知床財団 / 夜間・早朝)

ヒトもヒグマも暮らせる知床半島のために、ゴミの管理はもちろんのこと、迅速なヒグマ目撃通報をどうぞよろしくお願ひいたします。



6月20日にエゾシカ・ヒグマワーキングが開催されました。

科学委員会には、テーマに応じていくつかのワーキンググループがあります。今回からエゾシカの管理とヒグマの管理を話し合う会議が一つになり、エゾシカ・ヒグマワーキンググループとなりました。



知床半島エゾシカ管理計画の第3期計画がスタートしました。

第1～2期計画の10年でエゾシカの捕獲を進めた結果、一部の地域ではある程度までシカを減らすことができました。第3期は、いかに効率良く（資金的にも労力的にも）、今の低密度状態を維持していくかが課題です。



囲いワナの中に入ったシカ

一方で、対象地域に残つて立たれたり仲間がワナにかかるかに効率良く（資金的にも労力的にも）、今の低密度状態を維持していくかが課題です。

一方で、対象地域に残つて立たれたり仲間がワナにかかるかに効率良く（資金的にも労力的にも）、今の低密度状態を維持していくかが課題です。

シカは、年20%の割合で増加すると言われています。また、捕獲の対象地域でこそ減りましたが、対象地域の外にはまだたくさんいると考えられます。そのため、捕獲の手を緩めれば周辺かと見えられます。



知床半島ヒグマ管理計画に標津町が参画しました。

知床ではヒグマと人がどう向かい合っていくか、考え方をまとめた管理計画を作ります。

今年から始まつた第2期計画では、標津町も計画に参加し、これまでのヒグマに対する管理に加えて、知床半島全体で国立公園の利用者や地域住民に求められる行動について考え、皆さんにお願いしていくことになりました。



左はウトロでの普及活動の写真です。国立公園内では、道路脇に現れたクマを見ようと車から降りる方を見ることがあります。また外国人旅行者も増えており、言葉だけで無く絵などを用いて、守ってほしいルールをわかりやすく伝えている工夫が重要になっています。



Q. 知床半島にヒグマは何頭いるの？

A. 560 (± 440) 頭と推定されています。

今わかっている様々なデータ、例えば過去20数年分の捕獲頭数や、平均的なメスの初産年齢、出産間隔、一度に産む子の数などから統計的な計算を行った推定値です。 ± 440 とは「統計的には120頭～1000頭の可能性があるが、560頭あたりが一番可能性が高い」といった意味です。つまり誤差幅がとても大きい推定です。今後、半島全域を対象地域とした各種調査を進め、その結果を反映しながら、推定値の信頼性を高めていく必要があります。

会議の内容をもっと知りたい方はコチラ
知床データセンター

<http://dc.shiretoko-whc.com/>

他にも知床で行われている様々な研究データをご覧いただけます！

■問合せ先■

環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639

北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階

TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575